

➤ 1時間半でわかる臨床でしか使えない脳卒中リハビリ

# 注意障害と脳機能 高次脳機能障害との違い

①注意とは

②高次脳機能障害とは

③無意識・意識と注意の関係性

④臨床場面での評価方法

臨床と知識を繋ぐ

脳外臨床大学校

講師：脳外臨床研究会 会長  
作業療法士 山本秀一郎



**注意と聞いて・・・**

# なぜ、こんな症状が起こるのか？

**容量性注意障害**：一度に意識できる範囲や容量が狭くなる。

例：ふたつの事が同時に行えない、うっかりミスが増える

**選択性注意障害**：必要な刺激や情報に注意を向ける事ができなくなる。

例：多くの商品から適切な商品を見つけられない。物音がするとそちらに注意がそれて続けられなくなる。

**転換性注意障害**：他の対象に対して注意を速やかに切り替えられなくなる。

例：他のことに注意が散り目的に沿った行動ができない。または一つの作業から切り替えられない。

**持続性注意障害**：注意を一定の状態に保ち続けることが困難になる。

例：集中を保つことが出来ない、ミスが多い、考え事をするとすぐ疲れてしまう。

**配分性注意障害**：複数の活動に注意を向け順序よく実行することができなくなる。。

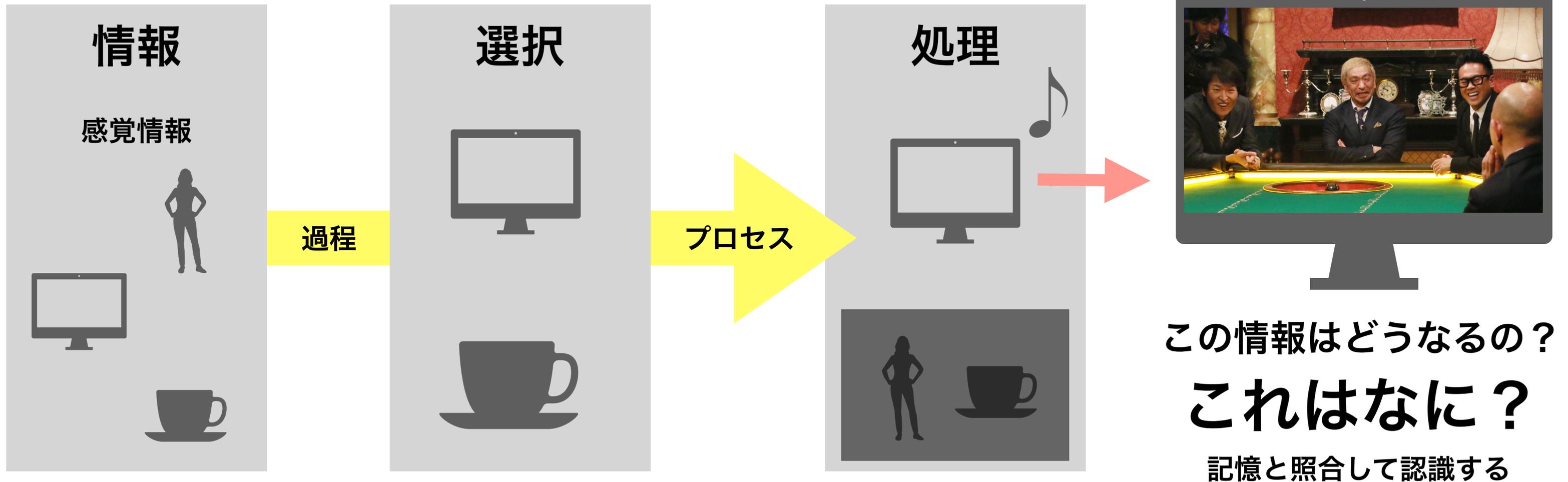
例：電話をしながらメモを取れない、料理で他のことをしていて鍋を焦がしてしまう、車の運転で周囲に気を配れない

# 注意障害とは？

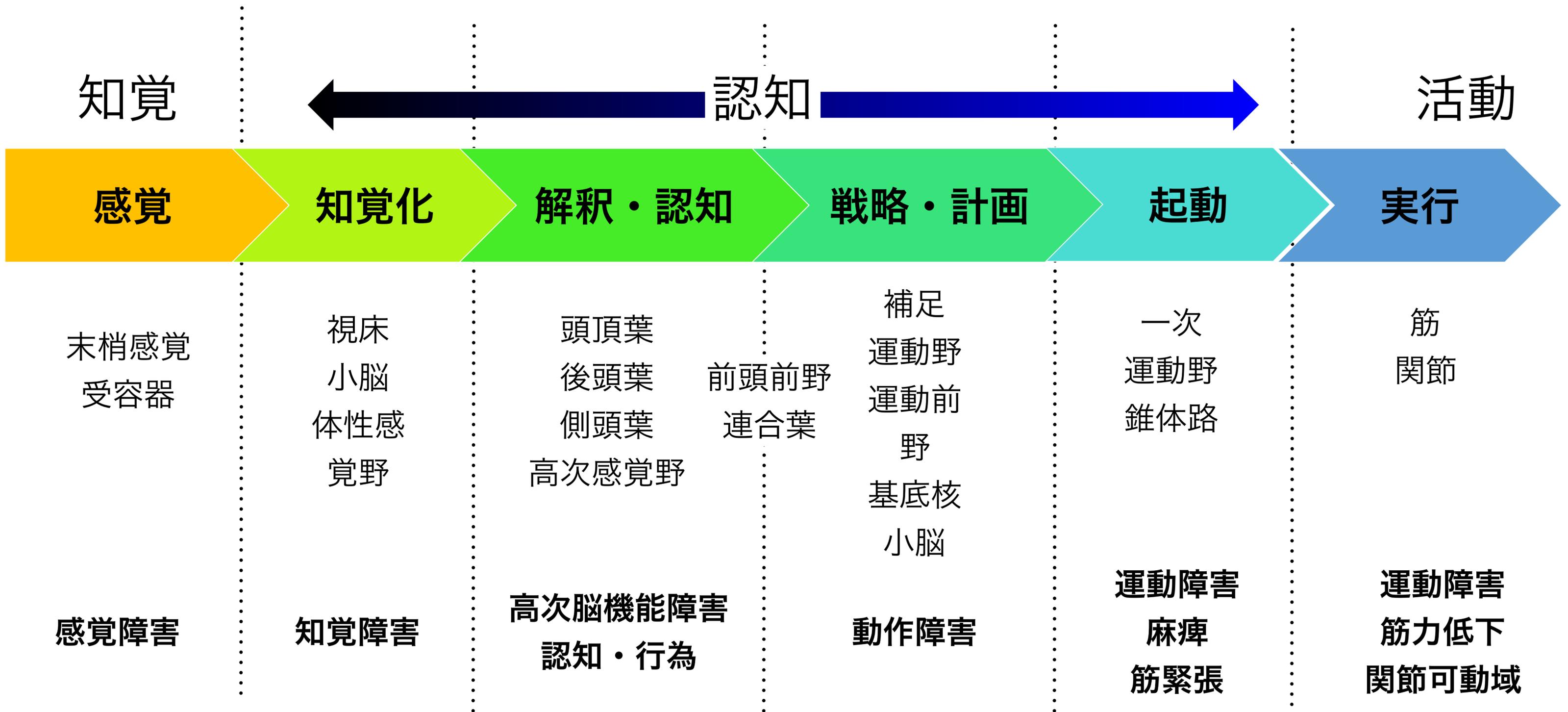
同時に起こってくる情報を選択的に処理する過程のこと

# 注意障害とは？

同時に起こってくる情報を選択的に処理する過程のこと



# 注意障害とは？



**注意障害 = 知覚障害**

一番気になったことを教えてください

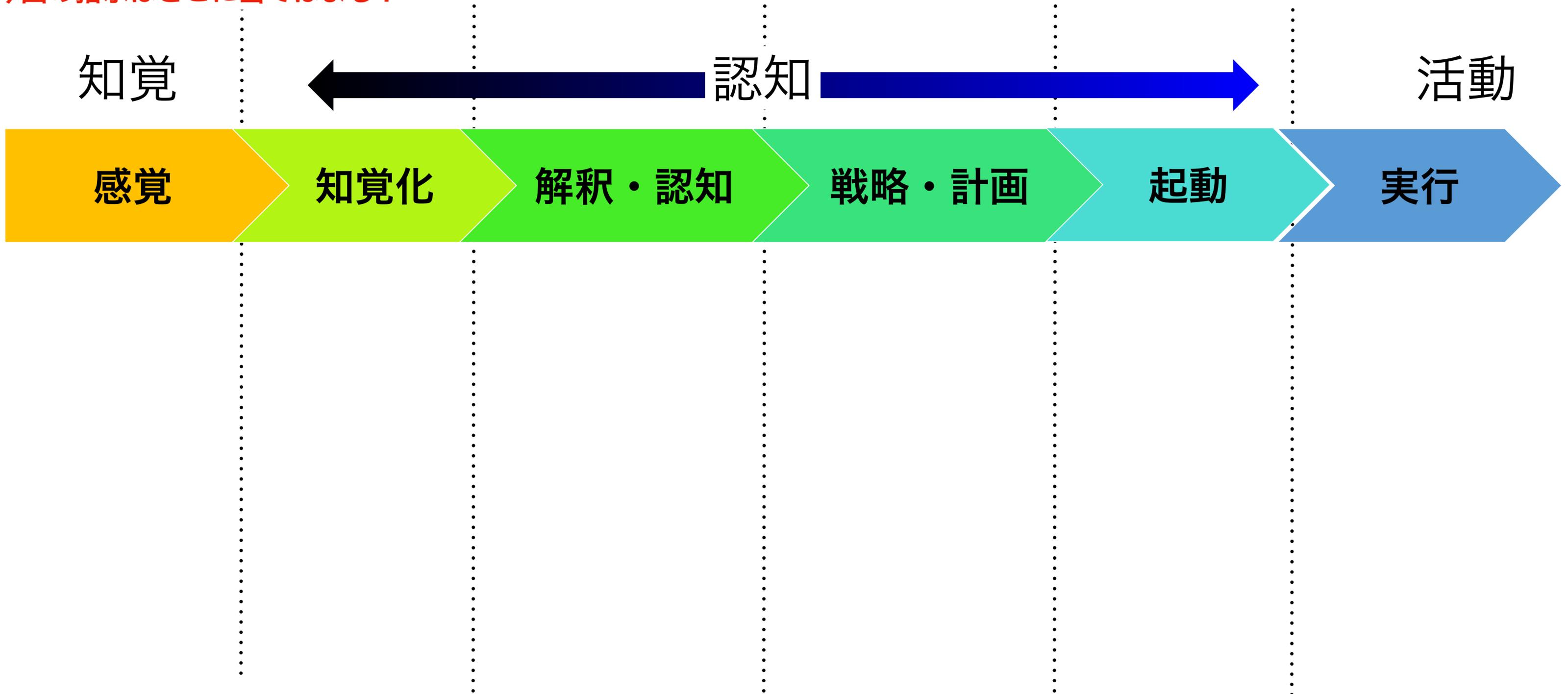
LET'S VISIT THE

ZOO



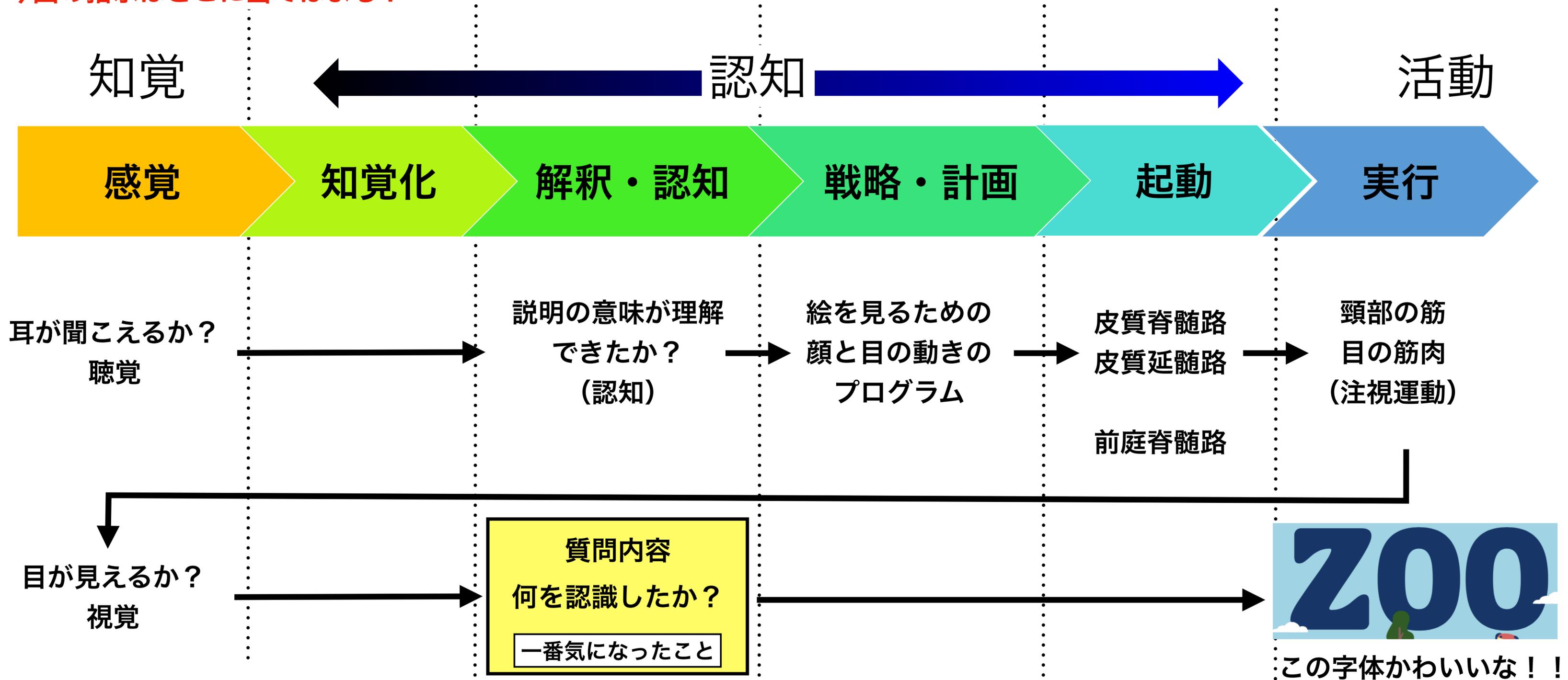
# 一番気になったことは？

今回の指示はどこに当てはまる？



# 一番気になったことは？

今回の指示はどこに当てはまる？



一番気になったことを教えてください

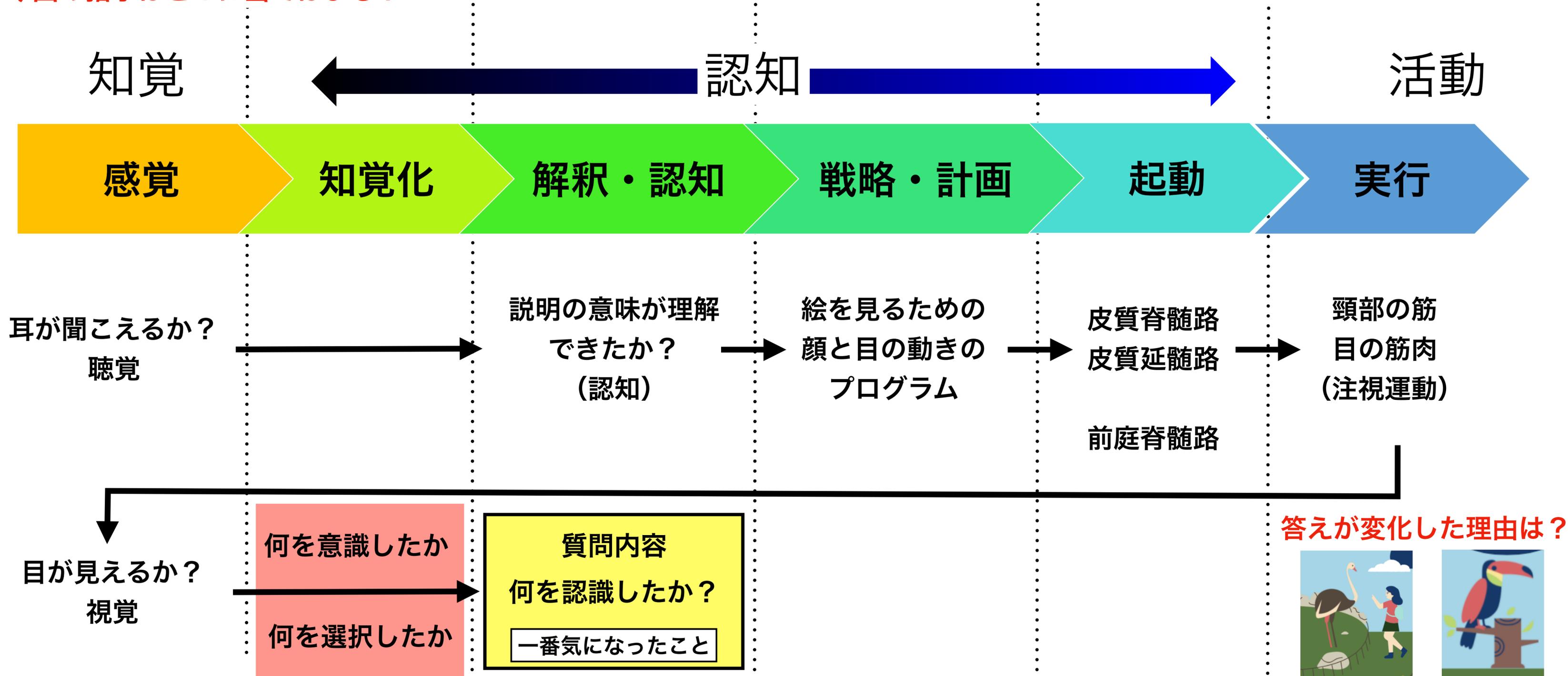
LET'S VISIT THE

ZOO



# 質問が同じなのになぜ違う答え

今回の指示はどこに当てはまる？



# 意識ってなに？

気づく、**自覚する**、意識を働かせる、気にする

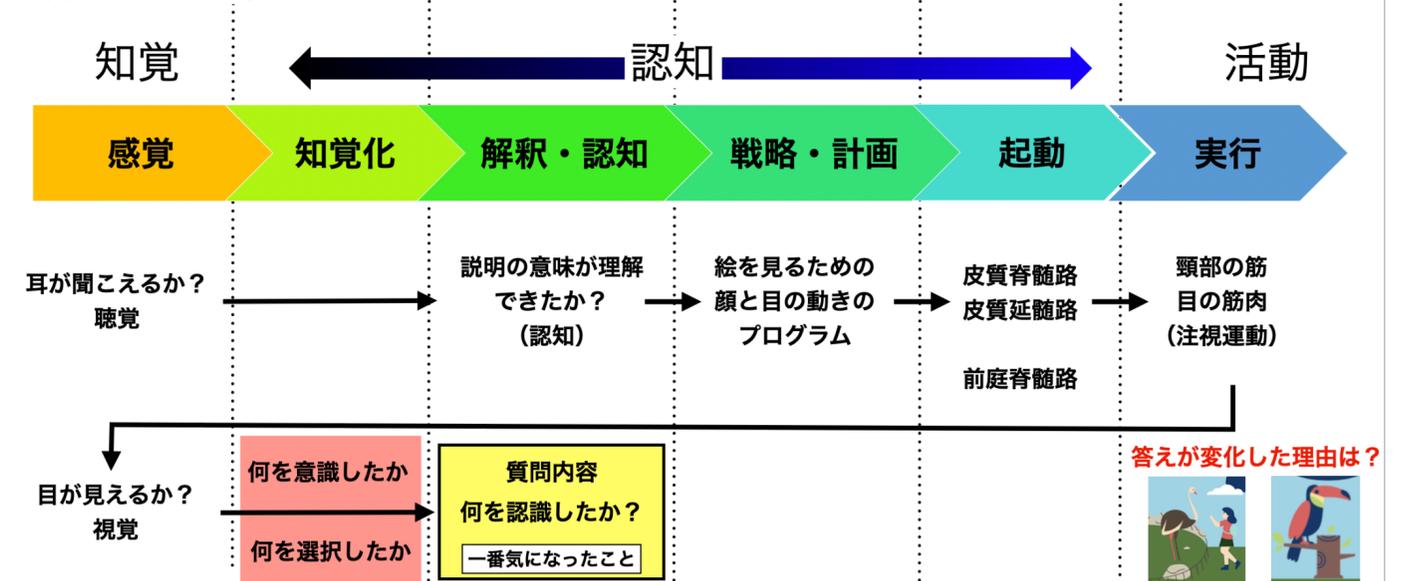
## 右足の位置は？



## 大切なことは？

### 質問が同じなのになぜ違う答え

今回の指示はどこに当てはまる？



# 注意を意識に変えてみよう！！

自覚できる範囲

容量性注意障害：一度に**意識できる範囲**や**容量**が狭くなる。

例：ふたつの事が同時に行えない、うっかりミスが増える

自覚できない

選択性注意障害：必要な刺激や情報に**意識を向ける事**ができなくなる。

例：多くの商品から適切な商品を見つけられない。物音がするとそちらに注意がそれて続けられなくなる。

転換性注意障害：他の対象に対して**意識を速やかに切り替え**られなくなる。

例：他のことに注意が散り目的に沿った行動ができない。または一つの作業から切り替えられない。

持続性注意障害：**意識を一定の状態に保ち続ける**ことが困難になる。

例：集中を保つことが出来ない、ミスが多い、考え事をするとすぐ疲れてしまう。

配分性注意障害：**複数の活動に意識を向け**順序よく実行することができなくなる。

例：電話をしながらメモを取れない、料理で他のことをしていて鍋を焦がしてしまう、車の運転で周囲に気を配れない

**どんなことを評価すべき？**

# どんなことを評価しますか？



## <車椅子駆動の評価>

①

②

③

④

⑤

# どんなことを評価しますか？



## ＜車椅子駆動の評価＞

- ① 周囲全体に意識が向けれるか
- ② 人や車などのものの音がしたときの反応
- ③ 向かうべき方向とやるべきことに意識してるか
- ④ 目的地に到達できるか？
- ⑤ 話しながら上記のことができるか


# どんなことを評価しますか？

## <車椅子駆動の評価>

- ①周囲全体に意識が向けれるか：容量
- ②人や車などのものの音がしたときの反応：選択
- ③向かうべき方向とやるべきことに意識してるか：転換
- ④目的地に到達できるか？：持続
- ⑤話しながら状況に合わせて上記のことができるか：分配

### 容量

上記のことが  
考えられるか？

### 選択

状況に合わせて  
評価項目を  
変えられるか

### 転換

上肢だけ  
下肢だけ  
目線だけに  
固執してないか

### 持続

3単位  
上記のことを  
意識し続けれる

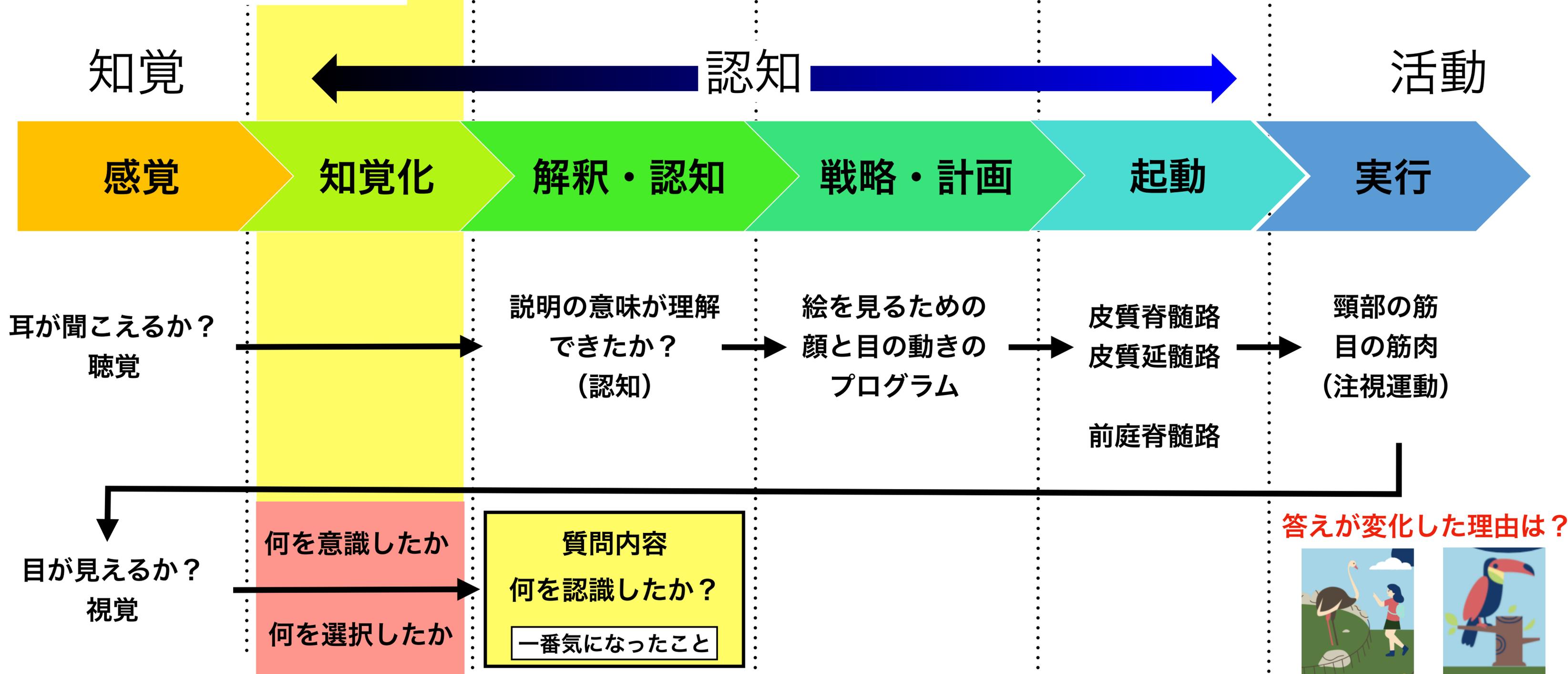
### 持続

今日のセミナー  
目標  
患者の状況  
などを  
考慮できるか？



# 知覚が行動を変える！！

今回の指示はどこに当てはまる？



# 注意評価＝行動観察

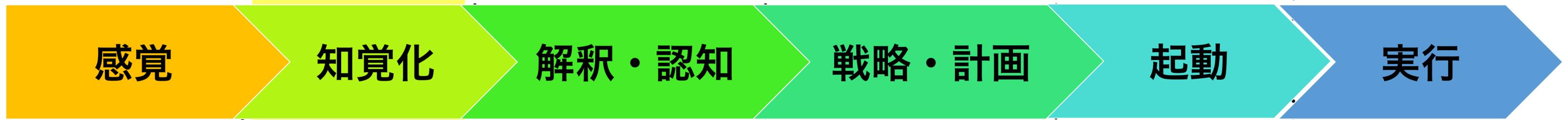
臨床場面ではどこを見れば良いのか？→

注意（知覚）が行動を決める

知覚

認知

活動



どんな情報が入っているか

何に意識を向けたのか？

行動をする理由をどう解釈した

行動を遂行するためのどんなプランを立てた

行動するための指令が出てるか？

行動：なぜこんな行動をしたのか？

感覚障害

注意障害

高次脳機能障害

運動失調  
遂行機能障害

運動麻痺  
異常筋緊張

ADL障害

感覚評価

注意・知覚評価

高次脳機能評価

協調性評価  
運動手順評価

筋肉の収縮評価

動作分析

<見えてる？>

<どこを見ていた>

<どう考えた？>

<どうしたかった？>

<動くか？>

<指示通りできてるか>

<感じている？>

<何を気にしている？>

<何をしたかった？>

<どうしたかった？>

<指示通りできてるか>



# 注意評価＝認知評価

<何を考えているかを聞くこと>

なぜそうした？ どうしようと思った？ どう感じた

